

# 生理研国際研究集会 「認知神経科学の先端 意識の脳内メカニズム」

## NIPS International Workshop for Scientific Study of Consciousness

### 開催のお知らせ --- 今年は9/19(土)-20(日)です!

「認知神経科学の先端」研究会は今年が3年目となります。2年前は「注意と意思決定」がテーマでした。昨年は「動機づけと社会性」をテーマとして行いました。今年は「意識」をテーマとして、「国際研究集会」として行います。多くの外国人研究者を招き、発表、議論は英語で行います。国際研究集会としての性格上、昨年までとは形式が変わりますが、議論の時間を多く取る方針はこれまでと変わりません。ぜひお誘い合わせの上、ご参加ください。

### ポスター発表募集中です。(締め切り 8/14)

(「意識」にこだわらず知覚関連での研究を広く募集します。  
ポスターアワードを行う予定です。)

日程：2009年9月19日(土) 12時～9月20日(日) 16時 (時間は多少変更する可能性あり。)

会場：自然科学研究機構 岡崎カンファレンスセンター

オーガナイザー：吉田 正俊 (生理研・認知行動発達機構)・土谷 尚嗣 (カリフォルニア工科大学)

Web site： <http://www.nips.ac.jp/%7Emyoshi/workshop2009/>

問い合わせ先：吉田 正俊 myoshi@nips.ac.jp

講演者 (敬称略)

- Ralph Adolphs (カリフォルニア工科大学)
- Ned Block (ニューヨーク大学)
- Olivia Carter (メルボルン大学)
- John-Dylan Haynes (ベルリン医大)
- 金井 良太 (ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン)
- Christof Koch (カリフォルニア工科大学)
- 西田 眞也 (NTTコミュニケーション科学基礎研究所)
- Hakwan Lau (コロンビア大学)
- 土谷 尚嗣 (カリフォルニア工科大学)
- Melanie Wilke (カリフォルニア工科大学, NIMH)
- 山本 隆充 (日本大学医学部)
- 吉田 正俊 (生理学研究所)

講演者の方の紹介など。(文責：吉田 正俊) さて、ここからはもっとくだけたかんじで講演者の方の紹介を書いてみます。今年は12人ですので、かいつまんで、ということで。

Christof Koch (カリフォルニア工科大学) は今年は神経科学大会のプレナリーレクチャーおよびシンポジウムを担当していただき、さらにこちらでもお話をさせていただく予定です。多彩な仕事をしていますが、クリックとの活動で、意識の科学研究を進めるために、「Neural correlate of consciousness (NCC)」を見つけるという研究プログラムを提唱する、というあたりがいちばん知られているかと思います。おばあさん細胞的発想が突っ込まれがちですが、さいきんは information integration theory を提唱する Giulio Tononi との共著を書いたりして、NCC が必ずしも局在論的なものに限らないことを強調しているようです。の参考文献：「意識の探求」(岩波書店); "A framework for consciousness." Crick F, Koch C. Nat Neurosci. 2003 Feb;6(2):119-26; "The neural correlates of consciousness: an update." Tononi G, Koch C. Ann N Y Acad Sci. 2008 Mar;1124:239-61.

Ralph Adolphs (カリフォルニア工科大学) は扁桃体の損傷患者の研究で有名です。意識下の emotion の情報の処理の話などが意識研究という意味では関わってくると思います。参考文献："A mechanism for impaired fear recognition after amygdala damage." Adolphs R, Gosselin F, Buchanan TW, Tranel D, Schyns P, Damasio AR. Nature. 2005;433(7021) 68-72.; "Processing of the arousal of subliminal and supraliminal emotional stimuli by the human amygdala." Glascher J, Adolphs R. J Neurosci. 2003;23(32):10274-82.

John-Dylan Haynes (ベルリン医大) は imagery のような外的刺激に依存しないものを fMRI で decoding する仕事で有名です。今年のベルリンでの ASSC(「意識の科学研究に関する学会」)ではオーガナイザーをされていました。神経科学大会で神谷さんのシンポジウムでトークした後にこちらでもトークをしていただけることになりました。参考文献："Decoding visual consciousness from human brain signals." Haynes JD. Trends Cogn Sci. 2009 May;13(5):194-202.; "Unconscious

determinants of free decisions in the human brain." Soon CS, Brass M, Heinze HJ, Haynes JD. Nat Neurosci. 2008;11(5):543-5. "Predicting the orientation of invisible stimuli from activity in human primary visual cortex." Haynes JD, Rees G. Nat Neurosci. 2005;8(5):686-91.

Ned Block (ニューヨーク大学) は哲学者ですが、認知神経科学の成果に基づいた上で話をされるので科学者と対話ができる方です。意識を機能的な側面 access consciousness と現象的側面 phenomenal consciousness とに分けた上で議論していますが、最近は少し言い方を変えて、cognitive access と phenomenal consciousness という分け方をしています。参考文献：

"Consciousness, accessibility, and the mesh between psychology and neuroscience." Block N. Behav Brain Sci. 2007;30(5-6): 481-99; "Two neural correlates of consciousness." Block N. Trends Cogn Sci. 2005;9(2):46-52.

Melanie Wilke (カリフォルニア工科大学, NIMH) は Leopold 研で flash suppression の電気生理をやってきました。最新の仕事では pulvinar の gamma リズムとの関連を見てます。参考文献："Neural activity in the visual thalamus reflects perceptual suppression." Wilke M, Mueller KM, Leopold DA. Proc Natl Acad Sci U S A. 2009 Jun 9;106(23):9465-70.; "Generalized flash suppression of salient visual targets." Wilke M, Logothetis NK, Leopold DA. Neuron. 2003 Sep 11;39(6):1043-52.

金井 良太 (ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン) は心理物理、TMS、tDCS などを用いて多彩な仕事をされています。現在は UCL の Walsh 研に在籍しておられます。最新の成果は "Frequency-dependent electrical stimulation of the visual cortex." Kanai R, Chaieb L, Antal A, Walsh V, Paulus W. Curr Biol. 2008;18(23):1839-43.; "TMS over the intraparietal sulcus induces perceptual fading." Kanai R, Muggleton NG, Walsh V. J Neurophysiol. 2008 Dec;100(6):3343-50.

紙面が尽きました。それでは、みなさまぜひお越しくください。